

みかぐらした

あしきをはらうてたすけたまへ

てんりわうのみこと

ちよとはなしかみのいふこときいてくれ

あしきのことはいはんでな

このよのぢいとてんとをかたどりて

ふうふをいしらへきたるでな

これハこのよのはじめだし

あしきをはらうてたすけせきこむ

いちれつすましてかんろだい

よろづよのせかい一れつみはらせど  
むねのわかりたものはない

そのはずやといてきかしたことハない  
しらぬがむりでハないわいな

このたびはかみがおもてへあらハれて  
なにかいさいをときよかす

このところやまとのぢばのかみがたと  
いうていれどももとしらぬ

このもとをくはしくきいたことならバ  
いかなものでもこいしなる

きよたくバたづねくるならいうてきかす  
よろづいさいのもとなるを

かみがでよなにかいさいをとくならバ  
せかい一れついさむなり

一れつにはやくたすけをいそぐから  
せかいのこよろもいさめかけ

## 一下り目

- 一ツ 正月こゑのさづけは  
やれめづらしい
- 二ニ につこりさづけもろたら  
やれたのもしや
- 三ニ さんざいこゝろをさだめ
- 四ツ よのなか
- 五ツ りをふく
- 六ツ むしやうにでけまわす
- 七ツ なにかにつくりとるなら
- 八ツ やまとハほうねんや
- 九ツ こゝまでついてこい
- 十ド とりめがさだまりた

## 二下り目

とんく<sup>く</sup>とんと正月をどりはじめハ

やれおもしろい

二ツ ふしぎなふしんかゝれば

やれにぎはしや

三ツ みにつく

四ツ よなほり

五ツ いづれもつきくるならば

六ツ むほんのねえをきらふ

七ツ なんじふをすくひあぐれば

八ツ やまひのねをきらふ

九ツ こゝろをさだめるやうなら

十<sup>デ</sup> ところのをさまりや

## 三下り目

- 一ッ ひのもとしよやしきの  
つとめのばしよハよのもとや  
ふしぎなつとめばしよハ  
たれにたのみはかけねども  
みなせかいがよりあうて
- 二ッ でけたちきたるがこれふしぎ  
ようくこゝまでついてきた  
じつのたすけハこれからや  
いつもわらはれそしられて  
めづらしたすけをするほどに  
むりなねがひはしてくれな
- 三ッ ひとすぢごゝろになりてこい  
なんでもこれからひとすぢに  
かみにもたれてゆきますする  
やむほどつらいことハない
- 四ッ わしもこれからひのきしん  
こゝまでしんぐくしたけれど  
もとのかみとハしらなんだ  
このたびあらはれた
- 五ッ じつのかみにはさうゐない
- 六ッ
- 七ッ
- 八ッ
- 九ッ
- 十<sub>ド</sub>

## 四下り目

- 一ッ ひとがなににごいほうとも  
かみがみているきをしずめ
- 二ッ ふたりのこゝろををさめいよ  
なにかのことをもあらわれる  
みなみてゐよそばなもの
- 三ッ かみのすることなすことを  
よるひるどんちゃんつとめする  
そばもやかましうたてかる  
いつもたすけがせくからに
- 四ッ はやくやうきになりてこい  
むらかたはやくにたすけたい  
なれどこゝろがわからいで
- 五ッ なにかよろづのたすけあい  
むねのうちよりしあんせよ  
やまひのすつきりねはぬける
- 六ッ こゝろはだんくいさみくる  
こゝろはこのよのごくらくや  
わしもはやくまゐりたい
- 七ッ このたびむねのうち  
すみきりましたがありがたい
- 八ッ
- 九ッ
- 十ド

## 五下り目

- 一ッ ひろいせかいのうちなれば  
たすけるところがまゝあらう
- 二ッ ふしぎなたすけハこのところ  
おびやはうそのゆるしだす  
みづとかみとはおなじこと
- 三ッ こゝろのよごれをあらひきる  
よくのないものなけれども  
かみのまへにハよくはない
- 四ッ いつまでしんぐくしたとても  
やうきづくめであるほどに  
むごいこゝろをうちわすれ
- 五ッ やさしきこゝろになりてこい  
なんでもなんぎハさゝぬぞへ  
たすけいちじよのこのところ
- 六ッ やまとばかりやないほどに  
くにくくまでへもたすけゆく
- 七ッ こゝはこのよのもとのおちば  
めづらしところがあらはれた
- 八ッ どうでもしんぐくするならば  
かうをむすばやないかいな

## 六下り目

- 一ツ ひとのこゝろといふものハ  
うたがひぶかいものなるぞ  
ふしぎなたすけをするからに  
いかなることみさだめる  
みなせかいのむねのうち  
かゞみのごとくにうつるなり  
ようこそつとめについできた
- 二ツ ところがたすけのもとだてや  
いつもかぐらやてをどりや  
すゑではめづらしたすけする  
むしやうやたらにねがひでる  
うけとるすぢもせんすぢや  
なんぼしんぐくしたとても
- 三ツ ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました
- 四ツ ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました
- 五ツ ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました
- 六ツ ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました
- 七ツ ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました
- 八ツ ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました
- 九ツ ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました
- 十<sup>ド</sup> ころえちがひはならんぞへ  
やつぱりしんぐくせにやならん  
ころえちがひはでなほしや  
こゝまでしんぐくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ  
このたびみえました  
あふぎのうかゞひこれふしぎ

## 七下り目

- 一ッ ひとことはなしハひのきしんにほひばかりをかけておく
- 二ッ ふかいこゝろがあるなればたれもとめるでないほどに
- 三ッ みなせかいのこゝろにハでんぢのいらぬものハない
- 四ッ よきぢがあらバ一れつにたれもほしいであらうがな
- 五ッ いづれのかたもおなしことわしもあのぢをもとめたい
- 六ッ むりにどうせといはんでない
- 七ッ そこはめいくのむねしだい
- 八ッ なんでもでんぢがほしいから
- 九ッ あたへハなにほどいるとても
- 十ッ やしきハかみのでんぢやで
- 十一ッ まいたるたねハみなはへる
- 十二ッ こゝハこのよのでんぢなら
- 十三ッ わしもしつかりたねをまこ
- 十四ッ このたびいちれつに
- 十五ッ ようこそたねをまきにきた
- 十六ッ たねをまいたるそのかたハ
- 十七ッ こえをおかずにつくりとり

## 八下り目

- 一ツ ひろいせかいやくになかに  
いしもたちきもないかいな
- 二ツ ふしぎなふしんをするなれど  
たれにたのみハかけんでな  
みなだんくとせかいから
- 三ツ よりきたことならでけてくる  
よくのこゝろをうちわすれ  
とくとこゝろをさだめかけ
- 四ツ いつまでみあわせるたるとも  
うちからするのやないほどに  
むしやうやたらにせきこむな
- 五ツ むねのうちよりしあんせよ  
なにかこゝろがすんだなら
- 六ツ はやくふしんにとりかゝれ  
やまのなかへといりこんで  
いしもたちきもみておいた
- 七ツ このききらうかあのいしと  
おもへどかみのむねしだい
- 八ツ このたびいちれつに  
すみきりましたがむねのうち
- 九ツ
- 十<sub>ド</sub>

## 九下り目

- 一ッ ひろいせかいをうちまわり  
一せん二せんでたすけゆく
  - 二ッ ふじゆうなきやうにしてやらう  
かみのこゝろにもたれつけ
  - 三ッ みればせかいのこゝろにハ  
よくがまじりてあるほどに
  - 四ッ よくがあるならやめてくれ  
かみのうけとりでけんから
  - 五ッ いづれのかたもおなじこと  
しあんさだめてついてこい
  - 六ッ むりにでやうといふでない  
こゝろさだめのつくまでハ
  - 七ッ なかくこのたびいちれつに  
しつかりしあんをせにやならん
  - 八ッ やまのなかでもあちこちと  
てんりわうのつとめする
  - 九ッ こゝでつとめをしてゐれど  
むねのわかりたものハない
- とてもかみなをよびだせば  
はやくこもとへたづねでよ

## 十下り目

- 一ツ ひとのこゝろといふものハ  
ちよとにわからんものなるぞ
- 二ツ ふしぎなたすけをしてゐれど  
あらはれでるのがいまはじめ
- 三ツ みづのなかなるこのどろろ  
はやくいだしてもらひたい
- 四ツ よくにきりないどろろみづや  
こゝろすみきれごくらくや
- 五ツ いつくまでもこのことハ  
はなしのたねになるほどに
- 六ツ むごいことばをだしたるも  
はやくたすけをいそぐから
- 七ツ なんぎするのこゝろから  
わがみうらみであるほどに
- 八ツ やまひはつらいものなれど  
もとをしりたるものハない
- 九ツ このたびまでハいちれつに  
やまひのもとハしれなんだ
- 十<sup>ド</sup> このたびあらはれた  
やまひのもとハこゝろから

## 十一下り目

- 一ッ ひのもとしよやしきの  
かみのやかたのぢばさだめ  
ふうふそろうてひのきしん
- 二ッ これがだいゝちものだねや  
みればせかいがだんくにと  
もつこになうてひのきしん  
よくをおすれてひのきしん
- 三ッ これがだいゝちこえとなる  
いつくまでもつちもちや  
まだあるならばわしもゆこ  
むりにとめるやないほどに
- 四ッ こゝろあるならたれなりと  
なにかめづらしつちもちや  
これがきしんとなるならば  
やしきのつちをほりとりて  
ところかへるばかりやで
- 五ッ このたびまではいちれつに  
むねがわからんざんねんな  
ことしハこえおかず
- 六ッ じふぶんものをつくりとり  
やれたのもしやありがたや
- 七ッ
- 八ッ
- 九ッ
- 十ド

## 十二下り目

- 一ッ いちにだいくのうかゞひになにかのこともまかせおくふしぎなふしんをするならばうかゞひたてゝいひつけよみなせかいからだんく」ときたるだいくにほいかけよきとうりやうかあるならばはやくこもとへよせておけいづれとうりやうよにんいるはやくうかゞひたてゝみよむりにこいとはいはんでな
- 六ッ いづれだんくつきくるでなにかめづらしこのふしんしかけたことならきりハないやまのなかへとゆくならば
- 八ッ あらきとうりやうつれてゆけこれハこざいくとうりやうや
- 九ッ たてまへとうりやうこれかなこのたびいちれつに
- 十<sup>ド</sup> だいくのにんもそろひきた